

令和 3 年度 第 1 回学校関係者評価報告書

鳥取県立倉吉東高等学校
校長 福光 浩

評 価 日		令和 3 年 6 月 2 8 日 (月)			
委 員 長	氏 名	年齢	性別	資格・所属等	委員長
	名越 宗弘	5 9	男	ホテルセントパレス倉吉社長	○
	池口 公一	5 7	男	倉吉市立東中学校長	
	井上 英之	5 5	男	地域関係者 (琴浦町清元院住職)	
	小椋 憲	4 0	男	河北中学校 P T A 副会長	
	福井 伸一郎	6 9	男	前倉吉市教育長	
	杉本 美智子	7 3	女	本校前同窓会長	
	早川 大輔	5 8	男	鳥取看護大教授	
	荒瀧 美由紀	5 4	女	本校保護者	
御船 斎紀	6 1	男	本校前校長		
評 価 ・ 提 言				学校の所見・改善策等	
<p>1. 前年度の最終評価について 新型コロナの影響で予定通り事業が実施できなかったが、手探りの状態で B 評価が出ていることを評価したいという意見をいただいた。</p> <p>2. 前年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について 委員から意見はなく、学校の報告のみ行った。</p> <p>3. 今年度の評価計画について (1) 目標設定について ①今年度重点的に取り組みたい、A 評価にしたい項目は何か。重点項目の中の「次代を生き抜く学力の伸長」とは具体的にどのようなことを計画しているか。 生徒の授業評価も大切であるが、教員の自己評価も大切ではないか。</p>				<p>今年度は、著名人講演会を実施したい。全日制 2 年生の研修旅行は国内、定時制 3 年生は山陰研修、2 年生は関西研修を実施したい。</p> <p>「授業改善」に力を入れたい。ICT 活用や IB の進展にも結び付くと考えている。次代を生き抜く学力で重要なものは、「思考力・表現力・判断力の伸長」と考えている。その前提として生徒が自宅学習等を通じて、しっかり基礎的な知識を「覚える」ことも重要。その</p>	

<p>②ICT 技術は先生方が覚えていくのにも時間がかかる。そんな中で働き方改革を推進するのは難しい。単に労働時間を減らすだけでなく、生徒に寄り添った指導をしてもらいたい。また生徒の目が輝くような充実した指導をお願いしたい。今、生徒は元気がありますか？輝いていますか？</p> <p>③ I Bに関する地域住民の知名度が低い。折角いい企画なのに、もったいない。I Bを導入して何が変わるのか、生徒はどのような能力が身に付くのか、そしてどのような計画でどのように発信していくのかを示していただきたい。</p> <p>④今年の定時制の状況はどうか。</p>	<p>流れの中で、学校では覚えることに時間を使わず「考え、表現する」ことに力を入れていきたいと考えている。</p> <p>現在は過渡期で、苦勞している先生がいるのは事実。先生方を支援しながら、ケースバイケースで業務改善に取り組んでいきたい。生徒は元気です。</p> <p>IBプログラムの成果に関しては、社会貢献の意欲を持ち、柔軟な思考力と発想で諸問題を解決していく卒業生を輩出したいと考えている。広報としては、今月、育友会との共同企画で、I Bディプロマ校を卒業し大学院に進学した女性へのインタビュー動画をYouTubeで発信した。また育友会のHPではIBに関するブログラリーを行っている。、現在、図書館棟をIB教室にするための改修も計画されており、次回の運営協議会では進捗状況を説明したい。</p> <p>今年の1年生は6人が入学したが、全員が元気に登校している。教員は個々の能力を把握しながら、個に沿った支援を行うよう努めている。ICTに関しては、機器を家に持ち帰って使う時間の確保が難しい生徒も多いが、効果的な導入</p>
--	---

<p>(2) 目標達成のための取組について</p> <p>①基礎学力向上策の「コーチングとカウンセリングを取り入れた面談」とは具体的にどのようなものか。また、教職員全員が行うのか。</p> <p>(3) 評価基準及び評価指標について 委員からの意見はなかった。</p> <p>4. 学校運営や予算に関する提言 委員からの提言はなかった。</p>	<p>の方法についての研究を行っているところである。</p> <p>コーチングは「引き出す」声掛けであり、カウンセリングは「困り感解消」のアプローチである。職員研修を行い全職員で行っていききたい。</p>
--	--